

迷 グ モ

本来、日本に生息せず、海を渡って日本に飛んで来、一代限りを日本で過ごす蝶を迷蝶と呼びますが、迷蝶ならぬ迷グモも結構いるのではないかでしょうか。

梅雨の頃、多くの仔グモが東シナ海を渡って、日本に飛んで来ていることがわかりました。（応動昆、25の4）この中には、一夏だけを日本で過ごしている南方の珍品も数多くいるのではないかでしょうか。

蝶などと違い、クモは余り目立たないので、今までに迷グモとして騒がれたことはありませんが、東シナ海を渡ってくるこのような迷グモは、かなりいるものと思います。

私も、以前に福岡市内で、みごとなムツトゲイセキグモをとったことがあります、これは迷グモだったのでしょうか。

また、福岡市内の水田で時々、ヒカリアシナガグモが見つかりますが、これも迷グモかもしれません。

今夏も、すばらしい迷グモに遭遇できたらよいなと思います。

（大熊）

役員改選信任投票結果報告

昨年10月～11月にかけて、役員の信任投票を行ないました。皆様の御協力有難うございました。投票の結果を報告します。

有効投票数 23

全員が、ほぼ満票で信任されました。

新役員

会長：吉倉 真

編集委員長：入江 照雄

会計：大熊 千代子

監査：木庭 奏

運営委員：馬場 武彦（順不同）

別府 義昭

石野田 辰夫

甲守 崇

松山 紘一

下謝名 松栄

田上 重憲

山口 鉄男

菊屋 奈良義

以上のように決定しました。なお、編集委員長以下の役職は委員の互選で決定しました。

クモの体重

クモの体重を測定した人は少ないと思います。文献でも余り見かけません。クモの体重は一体、どれ位あるのでしょうか。

例えば、ナガコガネグモについて考えてみましょう。夏の終わりに見かける、産卵前のまるまると肥った雌のナガコガネグモを思い出して下さい。果たして、彼女の体重は1円玉より重いでしょうか、軽いでしょうか？

正解は「軽い」です。私が測ったのは0.40gと0.57gでした。

予想以上の軽さに驚かれる方もあるのではないかでしょうか。もしも、1gもあるのがとれたら、それは超特大と言えるでしょう。ちなみに、オオシロカネグモは、0.04g、クサグモは0.42gでした。

(大熊&馬場)

会費受領

• 1980年度	村上成功	吉田 真	大塚 龍也
	成合智美		
• 1981年度	松本誠治	吉田裕之	野戸 章
	村上成功	萱島 泉	松浦祐司
	岩本 仇	入江照雄	吉田 真
	成合智美	大塚 龍也	千国 安之輔
	西川喜朗	国見 裕久	大塚 熨
• 1982年度	馬場武彦	吉田 真	野戸 章
	西川喜朗	国見 裕久	大塚 熨
• 1984年度	石野田辰夫		

事務局だより

少し遅いですが、明けましておめでとうございます。新しい年を迎え、事務局一同、張り切っています。今年も、よろしくお付き合い御願いします。

今年はイヌ年ですが、どうしてネコグモがいて、イヌグモがないのでしょうか。また、クモ年というのもあってもいいと思います。もっとも、毎年がクモ年のような人も多いことだと思いますが…………。

新役員が決定しましたが、信任投票ということもあってか、投票率は低く、有効投票数は前回の38を大きく下回り23に終わりました。

もっと、積極的な会運営ができるよう努力したいと思います。会員諸氏の協力を期待します。

九州クモの会会報 第11号

発行日 1982年1月30日

編集者 大熊千代子・馬場武彦

発行者 吉倉 真

印刷所 ニチイプリントショップ

九州クモの会 振替 福岡37343

九州クモの会会報（第12号） 昭和57年6月

「キムラグモの保護」に助成金交付決定!!

去る3月29日、世界野生生物基金日本委員会（WWF J：東京、外神田）は、キムラグモの保護と生息環境調査の為に、九州クモの会に対して、助成金を交付しました。これは菊屋奈良義氏（九州クモの会運営委員：大分市）が長年に渡り進めて来た「キムラグモの引起作戦」が推進すべき動物の保護活動であると認められた結果です。金額は30万円で、これは菊屋氏によって「団体群（北限のキムラグモ）消滅防止のための保護と移植適地への移動」の目的に使われる予定です。

1982年のWWF Jの保護活動助成は、スリランカの象、仙台のガン、北海道のゼニガタアザラシ、沖縄のイリオモテヤマネコなどに対しても行われ、これら貴重な動物と並んでキムラグモが助成金の交付を受けることは、キムラグモの重要さが認められたと同時に、クモもようやく“市民権”を得たという感があり、九州クモの会だけでなく、日本のクモの研究者にとって近年にない朗報だと言えるでしょう。また菊屋氏の地道な努力が背景にあったことも見過せません。

菊屋氏は喜びの言葉を次の様に述べています。「あの小さなキムラグモが、他の極めて重要な大型動物と並列に評価されたことが、少くともクモに関わりのある私共にとっては、とてもうれしいことです。また、キムラグモの重要性を認めていただけたことの喜びと共に、今後の調査、作業が単に機械的なものから、作業の質の問題へと転換して行くべく、大きな責任を感じています。」

キムラグモの保護活動に若い情熱を傾け続けている菊屋奈良義氏に励ましの手紙を！

（大分市末広町2-4-16 側 イカリテクノス内）

続・クモの体重

前回会報にクモの体重に関する小文を掲載したところ、早速、ハ木沼健夫氏より、世界最大のクモについてお便りをいただきました。ギネスブックによると、世界最大のクモは南米北部にいるルブロンオオツチグモで脚を伸ばすと25cm、体重は56g。また一番重いクモはブラジルのマナオスでとれたケナガオオツチグモで、体重はなんと、85g！ナガコガネグモ100頭より、なお重いというから、びっくりしてしまいます。

なお、ギネスブックにはこの他にも、最も小さいクモ、最も珍しいクモ、最も速く這うクモ、最も寿命の長いクモ、クモの巣の最大、最小、最も有毒なクモが、載っています。興味のある方は是非、御一読を。

会費受領

1980年度	村上成功 大塚龍也	成合智美	吉田真
1981年度	吉田裕之 村上成功 岩本仇 成合智美 西川喜朗 坂井数美	松本誠治 萱嶋泉 入江照雄 大塚龍也 国見裕久	野戸章 松浦祐司 吉田真 千国安之輔 大塚勲
1982年度	馬場武彦 西川喜朗 坂井数美	吉田真 国見裕久 山根正気	野戸章 大塚勲
1984年度	石野田辰夫		

寄付拝受

吉倉真(50,000円) 馬場武彦(8,000円)
五木村採集会(320円)

会 計 報 告

1981年度決算（1981年4月1日より1982年3月31日まで）

摘要	収入	支出	残高	備考
前年度繰越し	99,730			
会費	79,000			
寄付	58,320			
会誌印刷費		100,000		Hepta. 2 (1)
会報印刷費		29,000		(9.10.11)
通信費		25,030		
雑費		2,855		
翌年度へ繰越し			80,165	

1982年度予算

摘要	収入	支出	残高	備考
前年度繰越し	80,165			
会費	100,000			
会誌印刷費		80,000		Hepta 2 (2)
会報印刷費		20,000		
通信費		20,000		2回
雑費		2,000		
翌年度へ繰越し			58,165	

新 入 会 員

坂井数美 890 鹿児島市鴨池町1053 安田アパート

山根正氣 890 鹿児島市郡元1丁目

鹿児島大学理学部

事務局だより

HEPTATHELA Vol.2 No.2 の原稿募集

- ◎ 会誌投稿規定(Hepta前号参照)を参考にしていただき、気楽にご投稿ください。
- ◎ 原稿〆切 6月末日
- ◎ 原稿の送り先

〒 861-05 熊本県山鹿市小原

熊本県立教育センター・生物研究室
入江照雄まで

昭和57年6月1日

九州クモの会事務局・編集係

いよいよ6月になりました。会員諸氏は“6月”と聞くと、いったい何を思い浮かべるでしょうか。梅雨?紫陽花?それとも去年出会ったクモの顔(?)でしょうか。1年ぶりのなつかしい顔にも出合えるはずです。雨に負けず、野外にかけましょう。

6月と言えば、HEPTATHELAの締切も近づきました。編集担当のI氏が忙しくて困るくらい原稿が集まるのを期待しています。

九州クモの会会報 第12号

発行日 1982年6月1日

編集者 大熊千代子、馬場武彦

発行者 吉倉 真

印刷所 プリントショップ、プレス

九州クモの会 振替 福岡 37343

九州クモの会会報 (第13号)

昭和58年4月

東亞蜘蛛学会第15回大会(大分・別府市)準備中

大分での準備状況を報告しておきます。先ず会場をミズグモの小田の池周辺で……と探しましたが、日程の都合でダメ、ともかく国家公務員共済の「紫雲荘」に当って見たら、バッタリOK。別府市の斜面中腹にある素晴らしい会場が確保できました。支配人の御好意で料理等もウン。ウンと云うクラス。

学会参加者に、地元としては、国東半島の山寺のクモとも顔なじみになってほしいし、久住連山の中の毛変りの山“黒岳”とも仲良くしてもらいたいと思って準備中です。開催前日か、終了の翌日か、それともその両日か。

何れにしろマイクロバスの確保に走りまわっています。大分市長さんも、此の際、是非キムラグモの件で先生方に御挨拶したいと張切っています。

何しろ、九州の大分としては、クモ屋不毛の地として永い事、野村先生以来の空白が大きすぎますので、何とか国内のクモ狂の皆さんに、大分と親しくしてもらいたいと準備中です。特に熊本の入江先生は、大分の菊屋の下宿のオバさんと二人で、こまごましい事の打合せや、話合いいでいそがしそうです。乞御期待！

今の夏は東亞蜘蛛学会第15回大会が大分、別府市で開かれます。準備の様子を大分の菊屋奈良義さんに寄せていただきました。九州の方も、遠方の方もどうかよろしく。

新刊紹介

観察の本=8 クモの一生 千国安之輔著 偕成社発行 1,400円

- これは、生活史が複雑な各種のクモの中から、もっとも身近にいて、わりに観察の容易なショロウグモをえらび、わたしが一人の少年になりかわって、その生活史の観察活動を物語風にまとめたものです。 —あとがきより。
- ショロウグモの生活史を美しい写真と、わかりやすい文章によって紹介。子供達に対する自然観察の手引きであると共に、研究者にとっても非常に参考になる本です。

会費受領（敬称略）

1980年度	大野正男	・	小野展嗣	・				
1981年度	大野正男	・	小野展嗣	・	斎藤博	・		
	熊田憲一	・	新海栄一	・	山口鉄男	・		
	出来律子							
1982年度	林敏雄	・	八木沼健夫	・	千国輔	・		
	小野展嗣	・	松本誠利	・	斎藤憲治	・		
	熊田憲一	・	市利哉	・	嶋祐司	・		
	入江照雄	・	中島英	・	貝松合	・		
	水沢正明	・	甲守崇	・	浦信	・		
	新海栄一	・	中穂積	・	成美	・		
	岩木抗	・	成功	・	生信	・		
	大野正男	・	守也	・	出律	・		
	浜田竜一	・	山口龍也	・	秦来場	・		
	大熊千代子	・	塚龍也	・				
1983年度	小沢実樹	・	斎藤博	・	浜田竜一	・		
	野戸章	・	藤穂	・	大塚龍也	・		
	萱嶋泉	・	木場	・	大熊千代子	・		
	馬場武彦							

寄付拝受

吉倉先生出版祝賀会残金 1,000円
馬場武彦 8,000円

会 計 報 告

1982年度 決 算 (1982年4月1日より 1983年3月31日まで)

摘要	収入	支出	残高	備考
前年度繰越し	80,165			
会 費	94,000			
寄 付	9,000			
会誌印刷費		57,600		Hepta. 2 (2)
会報印刷費		10,000		12号 1回
通 信 費		10,660		
雜 費		560		
翌年度へ繰越			104,343	

1983年度 予 算

摘要	収入	支出	残高	備考
前年度繰越し	104,343			
会 費	80,000			
会誌印刷費		80,000		Hepta. 1回
会報印刷費		20,000		会報 2回
通 信 費		15,000		
雜 費		1,000		
翌年度へ繰越			68,343	

(責任者 大熊 千代子)

1982年度は会報の発行をさぼったため、会報印刷費と通信費の支出が予算を下廻りました。また入江編集幹事の努力により会誌の印刷が大分安くて済みました。以上の結果、繰越額が予定より増えましたが、この分、会誌次号の充実に当てたいと思います。皆様、どうか多くの原稿をお寄せ下さい。 (大熊)

HEPTATHELA 次号の原稿募集

- ◎ 会誌投稿規定(Hepta前号参照)を参考にしていただき、気楽にご投稿ください。
- ◎ 原稿〆切 6月末日
- ◎ 原稿の送り先

〒 861-05 熊本県山鹿市小原

熊本県立教育センター・生物研究室
入江照雄まで

九州クモの会事務局・編集係

事務局だより

桜の季節も終わり、いよいよクモの季節の到来ですが、会員諸氏はいかがお過ごしでしょうか。ほぼ1年ぶりの会報を編集するに当たり、事務局一同、反省しています。本年は正常な発行回数を目指していますので、どうか永い目で見てやって下さい。

さて、本年は東亜蜘蛛学会の大会も大分で開かれ、九州クモの会としても忙しい年になりそうです。是非、多勢で参加して、会を盛り上げましょう。また大分大会が九州のクモ界にとって良い刺激材料になれば……と願っています。

今年も事務局では、会報の原稿集めに苦労しそうです。雑文・小文でも結構ですから、投稿お願いします。また併せて、会報の編集に対する御意見、御希望や、原稿を集める方法など、どしどしお寄せ下さい。

九州クモの会会報 第13号

発行日 1983年4月26日

編集者 大熊千代子・馬場武彦

発行者 吉倉 真

印刷所 プリントショップ・プレス

九州クモの会 振替 福岡37343

クモの進化のすじみち

吉倉 真

大きな題目をつけましたが、ここに書くものは座談程度の偶感ですから、あらかじめおことわりしておきます。クモには3万5千ほどの種類があるそうですが、それは一般にハラフシグモ類、トタテグモ類、普通クモ類の3類目に大きく分けています。原始的なクモはハラフシグモで、それらのあるものがトタテグモ類へ、そしてまたそれらのあるものが普通クモ類に進化したと一般に考えられているようです。

はたしてそうでしょうか。そう考える理由はいろいろあります。例えばハラフシグモ類のクモの腹部は節々(12節)に分かれているのに、トタテクモ類や普通クモ類は分かれていません。ハラフシグモ類とトタテグモ類は、いづれも書肺を2対もっているのに、普通クモ類ではたいで1対しかもっていない。腹部の体節という点からみるとハラフシグモ類は最も原始的であり、書肺という点からみると、ハラフシグモ類はともに原始的ということになります。

この原始的というのは一体なんでしょう。かつて内田先生が動物分類学会誌1(1965)に、「原始的とは?」という文をお書きになりましたが、それによると形態学的には、構造の簡単なものが原始的で、それが複雑になっていくものもあれば、反対に、構造の複雑なものが原始的で、それが退化していくものもあるとのことです(そのほかいろいろお考えを述べておられますのが省きます)。このことをクモについて考えてみると、例えばクモの移精器官(触鬚器官)ですが、ハラフシグモ類のそれはたいへん複雑な構造をしています。しかしトタテグモ類になると、構造はずつと簡単です。ところが普通クモ類になると、ハラフシグモ類の移精器官と基本的に構造がほとんど変わらないものをもっているものがたくさんでできます。このことは一体どう考えたらいいのでしょうか。

最近面白いことを発見しました。ジグモの毒腺の奇妙な発生パターンです。毒腺はハラフシグモ類では小さく、キムラグモにはありません。トタテグモ類でもあまり発達してなくて、腺体は鉄角内にとどまっています。ところが普通クモ類になると、たいていよく発達した毒腺をもち、腺体は頭胸部まで入りこんでいて、長い導管をそなえ、それは牙の先端に開いています。ところでジグモの毒腺ですが、成体ではメスもオスも毒腺はかなり大きく、鉄角の先の方にあります。しかし驚いたことに、若虫の初期には腺体は頭胸部にあり、長い導管をもつて牙の先に開いているのです。

形態的にも機能的にも、普通クモ類の毒腺となんら異なるところがありません。

毒腺がなぜ若虫の初期に普通クモ類と同様の発生をするのか。成長するにつれ、なぜ退化(?)してトタテグモ類としての形態をとるのか。このような現象をどう解釈したらよいのか。どうもトタテグモ類というものは、まさにクモ類の中では曲者の存在であるように思えてなりません。

会費受領（敬称略）

1979年度 築地満男

1980年度 築地満男

1981年度 築地満男・松山紘一・野田和之

1982年度 築地満男・松山紘一・野田和之

1983年度 熊田憲一・理恵 中島英男・菊屋奈良義
松本誠治・新海栄一・山口鉄男・入江照雄
加村隆英・西川喜朗・築地満男・松山紘一
甲守崇・野田和之・徳本洋・大野正男
村上成功・市場利哉・岩本伉・神崎信生
小野展嗣・成合智美・下謝名松栄・大塚勲
千国安之輔・坂井数美

1984年度 熊田憲一・理恵 中島英男・萱嶋泉
佐藤幸子・小澤實樹・菊屋奈良義・松本誠治
野田和之・岩本 小野展嗣・野戸章
浜田竜一・成合智美・下謝名松栄

1983年度 決 算 (1983年4月1日より 1984年3月31日まで)

摘要	収入	支出	残高	備考
前年度繰越し	104,343			
会 費	98,000			
会誌印刷費		74,000		Hepta. 2(3)
会報印刷費		9,000		13号 1回
通信費		8,600		
翌年度へ繰越			110,743	

1984年度 予 算

摘要	収入	支出	残高	備考
前年度繰越し	110,743			
会 費	80,000			
会誌印刷費		80,000		Hepta. 1回
会報印刷費		20,000		会報 2回
通信費		15,000		
雜 費		1,000		
翌年度へ繰越			74,743	

(責任者 大熊千代子)

HEPTATHELA 次号の原稿募集

- ◎ 会誌投稿規定(Hepta前号参照)を参考にしていただき、気楽にご投稿ください。
- ◎ 原稿〆切 12月10日
- ◎ 原稿の送り先

〒 861-05 熊本県山鹿市小原
熊本県立教育センター・生物研究室
入江照雄まで

九州クモの会事務局・編集係

事務局だより

新緑の候となりましたが、会員諸氏はいかがお過しでしょうか。会報発行が伸び延びになり、皆さんにご迷惑をかけたことを、お詫びします。心機一転して頑張りますので、暖かい目で見守って下さい。

会誌の原稿締切まで、あとわずかです。奮って原稿をお寄せ下さい。(ついでに、なにとぞ会報の方の原稿もお願いします。事務局は原稿不足で困っています!)

暖かい日が続きます。さあ、書も顕微鏡も捨てて、戸外へ出かけましょう。また新しいクモとの出会いが待っているのでは……。

九州クモの会会報 第14号

発行日 1984年5月10日

編集者 大熊千代子・馬場武彦

発行者 吉倉 真

印刷所 プリントショップ・プレス

九州クモの会 振替 福岡37343

尾越洞で笑顎・大坂西川氏（会員近況として掲げたい）

10月9日、大分県下宇目町木浦の、「尾越鍾乳洞」K. 大坂の西川喜朗氏が潜りました。此の鍾乳洞は、昭和初期頃からの入洞者が、カンテラの煤煙で、記念の落書きをしてあるのが、カラホラ見られる程度です。まだあまり「観光資源」として活用されていません。入洞部のくぐり穴は、やや中年がとりがちですが、西川氏等には、ヨット「ム・フ・フ・フ・」と言う状態でござる。どうやらフリマーにて、嬉しそうな顎で「暗窓鑑識」の活動を続けてようです。

同日、尾越洞近くの「千人間府」と言われる廢坑めどにも潜りました。ユビナガコウモリなど、上眼にくらみてよからず、西川氏の暗窓鑑識は続いたのですが、可成り、笑顎の質が良かつたのは、やはり成果があつたからでは無いでしょうか。

その後、「HEPTATHELA」か、この会報かと、顔せかれ、かつて、御改稿下さりもしてお待ちしております。

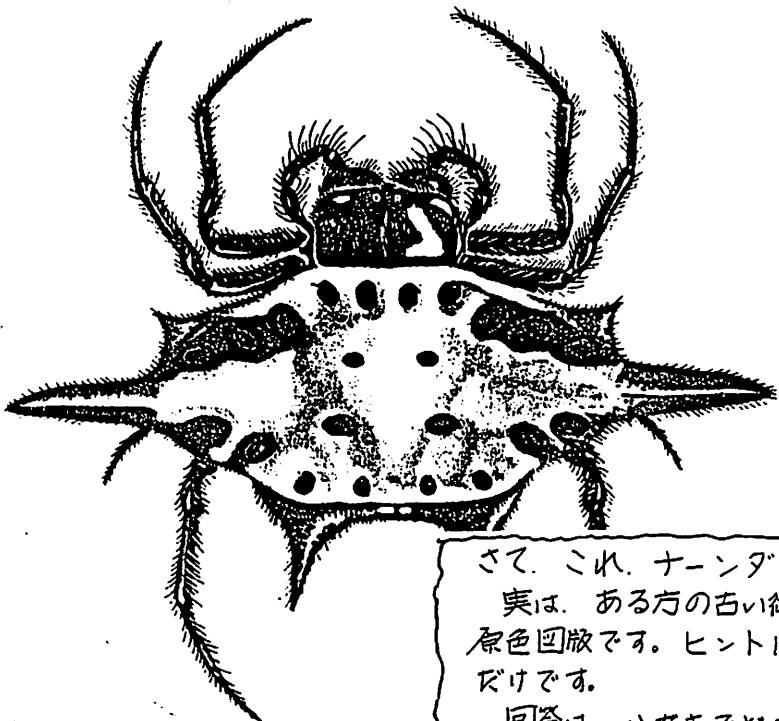


一使、マグダラ、研修センター・研修基地

大分県・傾山や夏木山、宮崎県・大崩山や五葉山附近を訪問される方。大分県南海部郡宇目町 西山 と言う。化貞山登山口付近 K. 研修センターがあります。自然観察指導員の研修センターで 10名まで宿泊できます。そのほか、真弓 と言う観察用の研修基地では、地区の人が民家をソックリ貸してくれます。

詳しいとは、〒870. 大分市末広町2-4-16 オカリテクス内

大分県自然観察連絡協議会事務局へ向合せて下さい。



さて、これ、ナーッタ？

実は、ある方の古い御著作の 挿し絵 です。しかも
原色回版です。ヒントは、「ニイタカヤマ ノボレ！」
だけです。

回答は、ハガキでどうぞ。回版4種類のカラー複写写
真を、正解者に贈呈します。(但しサービスサイズです)

回答ハガキ あて先

〒870 大分市末広町 2-4-16 (株)イカリテクノス内

九州クモの会事務局 底野係 あて

回答締切 1986年11月30日

原稿募集・原稿募集・原稿募集・原稿募集 !!

「HEPTATHELA」へ投稿して下さい。熊本教育センターで入江氏が
手ぐすねひいて待っています。特に九州勢の活躍を期待します。

(送り先・九州クモの会事務局(九大農・昆虫学教室):熊本教育センター入江熙雄氏へお問い合わせ可)



10月19日

日向市 K.

まだ、こんな元気

な奴が、ツクシ

ハギとクズの間

へ生存を主張し

ています。(菊)

九州クモの会会報 第15号

発行日 1986年10月31日

編集者 大熊千代子・前屋季義

発行者 吉倉 真

印刷所 九州クモの会事務局底野係

「江津湖の自然」 くまもとの自然シリーズ ① 紹介

おなじみ、吉倉先生の監修です。自然に親近、「仲人」としてすぐれた
縦書きされています。回遊ではなく、解説書ではなく、手引き書として高く
評価されています。「金峰山の自然」「菊池渓谷の自然」……と続刊
の予定です。

「自然保護」という概念が、自然を「被保護者」とする見地から進展して、内包された
人間の本來の義務と言う見地にまで展開されている今日、この種の、自然と人との
仲介する出版物が、熊本のそれからの専門分野の方々によって、互にとりわけ重い、極
めて有難いことだと考えられます。

くまもとの自然シリーズ①

申込みは

熊本県山鹿市

熊本県教育センター内

入江照雄氏

江津湖の自然

監修 熊本大学名誉教授 吉倉 真



*事務局連絡先、ちょっと変化しました。

従来、九卅ツモの会では、事務局で
会務を進めて來ました。今年秋から、連絡先(事務局の窓口)を下記に改めます。

〒870 大分市末広町 2-4-16 (株)イカリテクノ内九卅ツモの会庶務係
従って、会報準備・出納・会費受付け・その他の会務のうち庶務的雑用は
一切、この庶務係の方で実行します。会の組織は従来どおりで変更がな
りませんが、便宜的に庶務分野の下請けを周設いた訳です。もし緊急の場合
などの連絡は、Tel: 0975-34-4641、係員足立高行・辻井睦美の両
名にお申し付け下さい。

*会報遅延の御詫び

会報の発行が、諸般の事情で伸び伸びになつてしましました。係り
新設後のマガツキからです。やっと整理出来ましたので、今後は、余り御不自由
をおかけしないよう、コマメな活動を御約束します。ごめんなさい。

◆ アドバイスを求める
(東京農工大・自然保護学科 武生君)

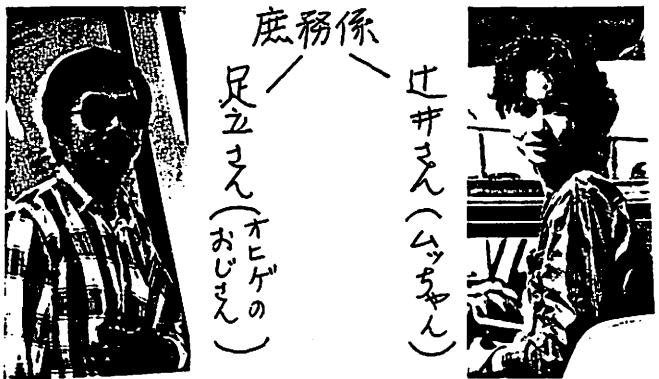
大分の枕原の森(サイゴクヤケ)も、
ヨロヒメグモの多い森)で、

「植生・生物構造と竹の造綱」
として研究をはじめました。主として
位置と植生の結びつきを調べて
います。何とかアドバイスをお願いします。



原稿 欲しい!!
会員の近況・身近かな報文など
ウーンと欲しいのです。ヒマが無からうと
思ひますが、ヒマを作り出して、何か、送つて
下さい。腕組みしてお待ちしています。

ごとく、会庶務係としては、仕事がないと
折角の青年・美少女の腕のふるいようがないのです。
どうかよろしく。七重の藤と八重に折つてお頬ほほ。



穴掘り工学入門者、1名。 大分で実習修了。〃

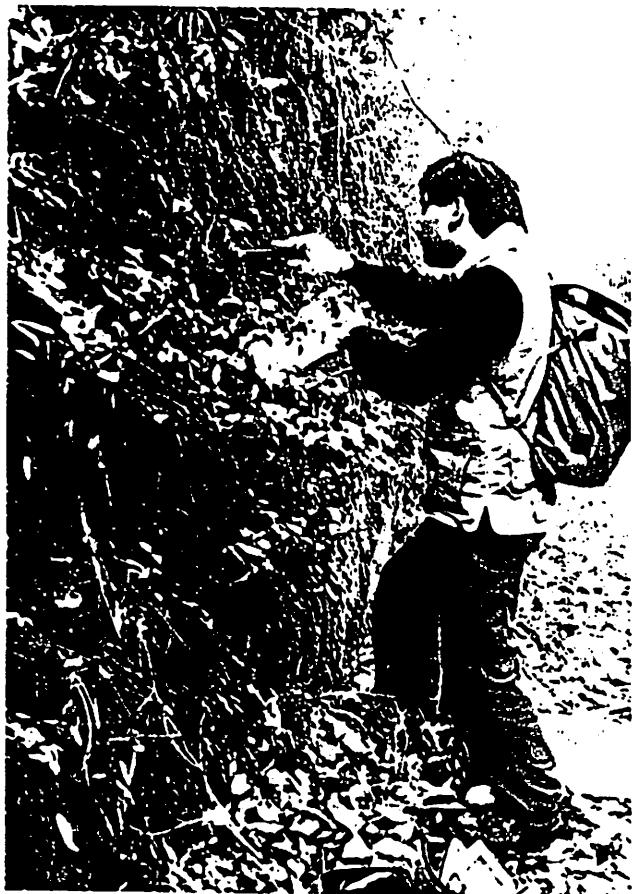
若さに溢れていました。大分駅の階段を昇って来る足取りも軽く、「若さ」が歩きよろ！と言つ感じでした。

すぐに「豊後土工」^(註)の弟子入りで、勿論キムラ掘り。

大分市南郊の「糸寒多・宮の滝」で、林道改修予定地に案内。斜面角度86°と言うマダケ林林縁崖のコモチシタ群落に頭を突っ込んで搜索。続いてアラカシニ次林林縁崖、62°の斜面で、ヒメシャゴケ、ハミズニワスギゴケの繁る崩落崖で穴掘り。更にアカマツ再生林林縁のヤマツツジ、サルトリイバラ、イスワラビの生育する崩落崖で、オーバーハングの下部裸出崖でも熱心に穴掘り人夫の作業に従事した。望ましい標本を得たかどうかは、走かない。(でも熱心ですよー!!)

(註) 国内のトネリ工事の主要部分は、多く豊後土工と呼ばれる、県射瀬村の父ちゃん達の手になったもの。此の結果にて、豊後土工達は、Siが肺に吸着し珪肺病(労作災害)患者が続出し、社会問題になった。(1960~1970年代)

3月11日、初めて大分を訪れた小野辰嗣氏は、



お届けはす HEPTATHELA VOL 3, NO. 2

でも、聞いてもらひたい、「ゲチ」も一緒に同封します。

素晴らしい投稿が掲載されています。いつも変わぬ研究姿勢で、次々と目を見はるレベルの発表を続けられている齊藤氏から、「日本のファウナに加わった数種のサラグモについて」と題する玉稿を戴いています。栃木と九州が、より一層近くなったようで、慌てゝサラグモ類の標本を見直したり……。

入江氏も相変わらず勢いに満ちた「熊本県のサラグモ類」をまとめられて、刺戟されることしきりです。九州では吉倉先生の実質的後継者として、これからも益々!!と期待している方々も多いようです。

ところで、原稿を待つります。入江氏が、多忙を極める教育センターに勤務し乍ら、尚かつ、あれだけ精力的に全九州を走り廻り、その上で編集にまで手を出してくれているのです。（勿論、九州に居る私自身猛烈反省、赤面中でアリマス）

ナントカ、理屈抜きで、「HEPTATHELA」に原稿を送ッテクダサイ。活字も良くなったりし、図版も結構イケル会誌に育ッテ来ました。入江氏に「多忙さの生き甲斐」を、ナントカ、シッカリシャント、皆で押し付けチクダサイ。彼の精気も熱意も、多忙さの中でこそギラギラ光り続ける性質のものです。人生の働き盛りで光り続いている入江氏に、もっと力を發揮させてやって欲しいものです。（当然九州勢のフレンドリヨク、カンフル注射、ナントカシヨクレ……と叶ひます）

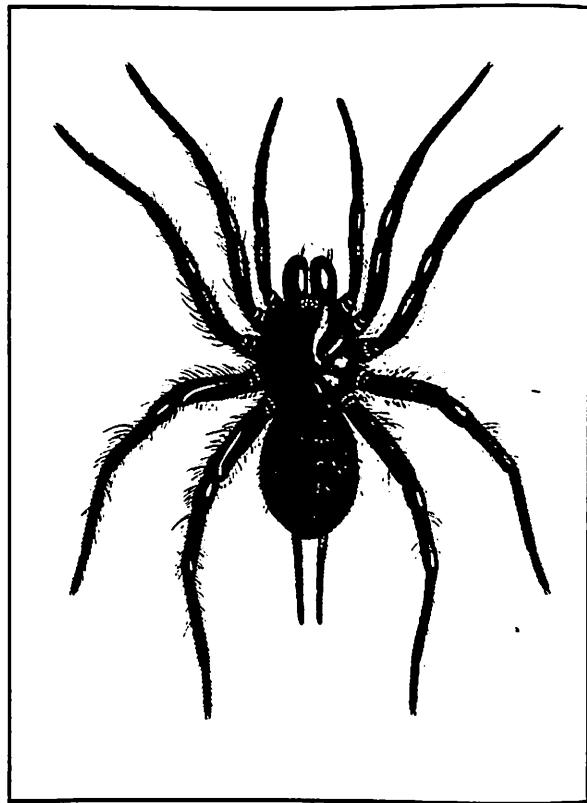
入江さんへ：九州クモの会を維持する柱として、頑張って下さい。九州へ日本と言う位置付けで、長年に確実に旨を引、張って行って欲しいと思います。（いそがしい仕事は、いそがしい人に頼め！と、大分古謡に在ります。）

これ、ナンダ?

第15号では、ザウタートケグモを紹介しましたが、萱嶋 泉先生の御著書「台灣の蜘蛛」巻頭の挿絵です。ヤッパリ回答者は正解者ばかりで、サスガ、日本のクモ達!!

ナント、萱嶋先生自ら御回答を戴きました。此のユーモアと茶目ッ気が、もしかすると御健壯の祕訣かも? そう言えば、八木沼先生も、千国先生も時として……。ヤッパリ……。

「台灣の蜘蛛」は昭和18年8月20日、東都書籍(株)から、2.000部発行されたものです。一冊五圓。(当時のコツカイ10銭!!)それく「特別行為税相当額80銭」。当時の出版事情が偲ばれます。家蜘蛛・屋外蜘蛛(地中・平地・山地・海濱・水邊)の章で、既に蜘蛛の生活環境選択性に着眼されている。「家蜘蛛と言ふのは、通常君々が屋内に見受ける蜘蛛の總稱であつて、分類学的には何等有義を有しない言葉である。然し家蜘蛛だからと言って、屋内にのみ棲息している蜘蛛と言ふ譯のものではなく、屋外に於ても、樹皮の下、葉の裏、石の下等の比較的暗い所にも棲息してゐるものである。へ原文のまゝへ」 こうして環境選択性を支える要素はナシだろ? これに着目すると、もっ親しめる蜘蛛学になれるにいだろ?



ホルプラツチヨウクモ

• コレナンタ?の回答者の方へ、全員へ、P.62.4.15日、セゼスオハイのカラー写真を送りました。

◎会費納入： 帳簿整理が、やっと終りました。全会員の台帳を作成して、一応、1987年3月31日で会計業務の年度決算体制に入りました。

各会員ごとに、台帳のコピーを封じましたから、お手元の出納控えなどと照合して下さい。出納状況は過去、実に細かく記録されていますが、整理時に転記ミスなどが在るかも判りませんからヨロシク！

なお、会計業務に関する決算報告は別に行います。

(振替口座新設)： 従来は九州クモの会として、福岡貯金事務センターで取扱っていた 振替口座はそのまゝ変化なく

旧：福岡 1-37343 ----- → 新：福岡 1-37343

新口座の振替用紙は、次号 会報17号 から封するようになります。

(教えて下さい)： ヨロイヒメグモを或る年、大分県は久住山系の黒岳のブナ林(ブナーソクシルカケ群集)のブナ高木の根元、西側大の岩の下側凹みで採捕しました。観察記録では、稀れ!!とあります。ところが、翌年後の1983年12月、大分市杵原コジイ林の林床調査で、 $2m \times 2m$ のコドラーで25方畝区で平均4頭/ m^2 、1984年2月には $2m \times 2m$ 、25方畝区で平均11頭/ m^2 と言う出現密度を示しました。越冬行動なのか、もとよりタマリタのモカ、他の原因がたくさんあります。此の現象を理解するうえで、何か不謹を下さると有難いのですが？ もし類似現象を既存知の方は、出来れば力を貸して下さい。

編集後記

N016. 早く届けたいとアセリましたが、肝臓の会計帳簿の整理に手間となり、遅くなってしまひました。御許し下さい。ゴキブリ屋の仕事をいそがしく、思うにすかせない状況ですが、タニマズ歩いて、折角の会の活動の縁の下の力になつもりです。

ト野辰郎さんを大目に迎えてタリバみました。どうぞ九州にふいでいた時は、庶務係に、気楽に寄って下さい。ソレガタノジでセセセと歩き続けます。どうぞよろしく。（辻井・足立・菊屋）

九州クモの会会報 第16号

発行日 1987年3月31日

編集者 大熊千代子・菊屋奈良義

発行者 吉倉 真

印刷所 九州クモの会事務局庶務係

クモの生物学

刊行さる。

まえがき 無断コピー

クモ学の存在を世に向う。吉倉先生の生涯作。読み程と感じなくなり、時間を忘れる。余りの嬉しさで恩師にも贈呈し、改めてクモ学に導いてくれた恩師に感謝した程です。

それで甘えて、読後感を書いていたときました。古いクモ仲間の人からのラブコールでもあります。（編集者）

クモは昆虫とともに身近にいる動物ではあるが、昆虫ほどよく知られていない。研究者が少ないせいもあるが、ショウ、トンボと違って、人にあまり好かれていないからかも知れない。したがって、クモ学の進歩は昆虫学に比べると非常におくれている。

現在、世界でクモは約35,000種、日本で約1,000種知られている。それらの形態、生態は、昆虫ほどではないにしても多様多様で、いずれもみな、一生あらゆる場合に糸を利用して生活している。このような動物はほかにいない。筆者は長い間いろいろな動物に親しんできたが、今ではこれほど魅力ある動物はないと言え思っている。このような動物を、現代のライフ・サイエンスの立場からみつめ、常に動物の進化ということを念頭に置いて、クモのこと全般にわたり記述を展開していったのが本書である。

本書によって、“クモとはどんな動物であるか”，従来あまりよく知られていなかった多くのことが、科学的にかなりよく理解いただけるのではないかと思っている。しかしクモを本当によく知るためには、専門からではなく、自然から直接学びることが必要で、本書がそのよき手引となり、少しでもクモに親しむ人が多くなればと願っている。なお本書の出版によって、わが国のクモ学の進歩が今後一段と促進されるようになれば、筆者限りの喜びである。

1985年3月

吉倉 哲

感銘！のひとこと。

大分大学教授 小林 晶

“包囲されたクモ”と言つ感の、すばらしい専門書と拜読致しました。何はともあれ、まずひといいたのは、発生の項で、キムラタモの胚発生の、美しい繊細しかも緻密な図を、なつかしく拜見させて戴きました。46年前、大学の阿部研究室で、物静かに顕微鏡にとり組んでおられた溫和なお人柄の大先輩に、再びお会いしたのは、敗戦後の九州での学会でした。ガザミやシャコと同様に、蜘蛛も毛嫌いしない、少數派の一人の感想です。

註。（小林晶先生は、広島文理大学で動物発生学をおこな。オオイタサンシウウオの発生研究のため大分大学へ奉職された。大分県下の教師達の動物観に多大の影響を与えた哲学者肌の、名利を追わない動物学者の一人でもある。）

アシダカグモ

萱嶋 泉

大分市内に「森と遊ぶ会」「城南ムササビ会」「コンパル自然教室」と言う母子（懐ふくわせ）のグループがあります。アシダカグモは、「必見の書」と指定されました。特に熱心な母さんの要請で、50冊実は萱嶋先生のサインを、お預けしました。とても無理なお願いでしたが、大分市内でアシダカグモファンが沢山あります。

浜小路 悅子先生

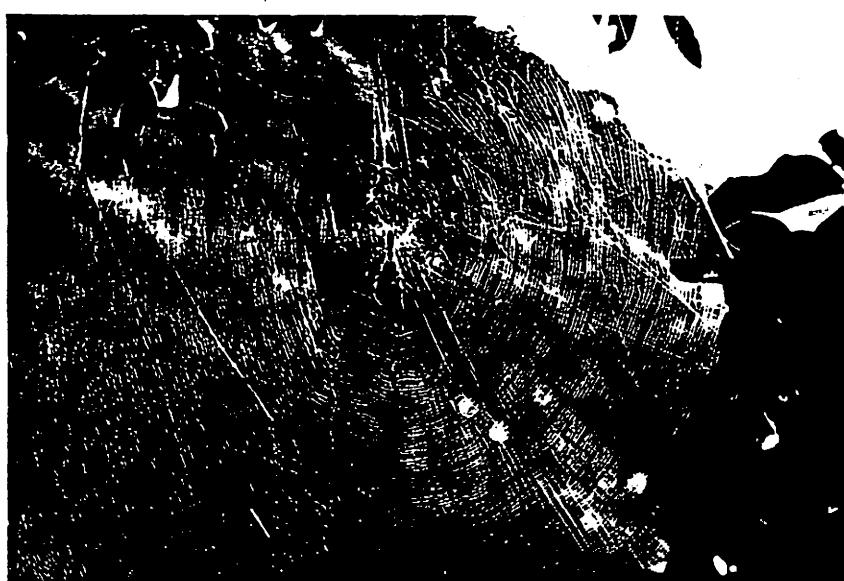
松原幹男先生など、教師連がやはり喜んで、笑っています。著者と縁のつながるケモ屋の一人として、ヤバウレッシュウテ、アリません。「自然界の生きものと人間との仲立ち」にも生き物研究者の1つ役割りでしようから……。

(編集部)

アシダカグモと読んで
「こんな本いいでえ。読んでみらんかえ」
師匠、菊屋先生から一冊の本を紹介された。
「むずかしい本は頭が痛くなる」と不出手な弟子はそう言いながら本をめくつた。
「絶対になら何とかなるじゃろう」と鬼いつつ読みだした止まらんごとなつた。寒のところ、アシダカグモはどうも気味が悪い。がこの偏見が何なくひっくり返されてしまった。

七年間生き延命が産卵し、子どもが卵のうから出たのを見届けた後、死んでいった写真が載っていたからだ。子どもが愛しいと思はれ持は人間もアシダカグモも同じだなあと心に同志じみた情を感じてしまった。

「元気かえ。子どもは育ちよるかえ。あんまり一生懸命生きちゃんのんやない。今度、アシダカグモに会つたらそつ疾扱しよう。むすかしい研究を、誰にでもわかる言葉で語りかけ、私ども（22人）に、知る楽しさを教えていたい萱嶋先生に感謝、感謝

監視係多担当
浜小路 悅子
大分市立城南小学校 教諭

FUJICOLOR 63

- 1987. 大分市の終認記録です。
- ブロウカモ♀
- 13.XII.'87
- 大分市松原シイ林
- 南東部ヤツハギとカガメの間
- 個体は、大型だけをやせて、弱っていました。台風でシイ林の一部のクローキが空隙となつたあたり高木の間に地上1.7mに5匹生息していました。

これは、便利!!

ビデオカメラ用の SUNPAK CV-300

ヘビーウランプが発売されました。バッテリー式で放電20分間。カメラのホットシューハンダで使用します。シクロではなくて。

照明灯ですから、夜間の観察や、撮影(ビデオ撮影)に

便利です。長焦点レンズによる拡大視など、好調です。販売元は、(株)トーカド。

メーカーは東北サンパク、単価￥19,800.-で購入価格は￥16,000.-でした。

(カメラのホットシューハンダ)

軽量で、光到達距離も15mくらい。使用感はグー!!です。

バッテリーは充電式(8時間でフル充電)。ライト角度は水平方向から15度下方向まで可変式、色温度3200°K、中心光度約3000cd(100ルーメンあたり)、重量520g。

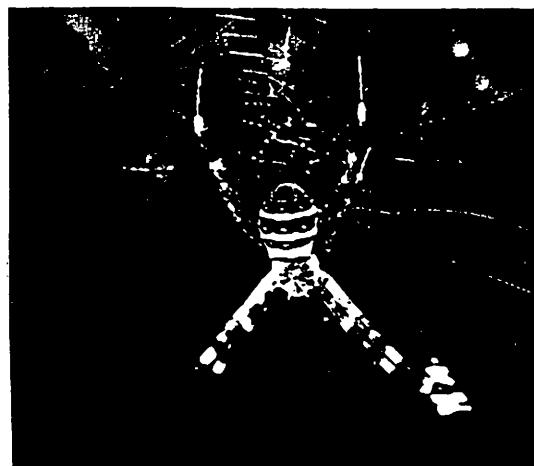
各地のカメラ店にはあるそうです。都会だと、もっと安くはあるのでは?と思えます。

豊後^{キタカミ}の民話(土屋正彦編・国士社)より

大分県下の杵築市(松平侯の城下町)の民話集K.クモ.ムカデなどのパートを求めました。

その問い合わせから、出来れば類似のものと、お知らせ下さいませしか?

- 朝蜘蛛がさがれば人が来る。
- 夜蜘蛛が下がれば人が来る。
- 育百足は縁起がよい。
- 朝百足は親に似ても致せ。白足が家の中居ると金が入ってくる。
- 入り口に蜘蛛の巣(しゃぶで、親にかかる、面子をつぶすの意)



1987. 大分市での終認記録です。

- コガネアゲハ♀
- 17 XI. '87 • 大分市花原アラカシ林
- 東縁、放棄水田に面した袖群落。
- 個体は、大分地方のものとこれは中位の大きさ。
色彩全体に赤味があり、X状のかくらあひ
は強く一部巨申に認めていた。
- 19 XI. '87 には、個体不在、鉛錠に引
だった。

御詫び：会計報告が6月初旬になります。

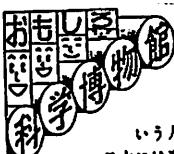
事務局移転以来、どうやら曲りなりに、何とか月日を経て来ました。16ヶ月目を迎えて、
只今帳式（会計規則による）の整備がやっと終了いたします。①現金収納帳、
②勘定元帳 ③決算報告台帳 ④出納伝票 ⑤証票書類 ⑥資産台帳
などです。この方で行きますと、5月初旬、収支決算、勘定〆、5月下旬まで監査、6月
初旬、監査報告、6月中旬、決算通知発送、と言う順になります。悪しからずお許し
下さい。（事務局、庶務係より）

～原稿募集「HEPTATHELA」vol.3. NO.3.～

会員の方々の玉稿をお待ちしております。7月までに、是非第
NO.3.の印刷を終らせたいと思います。是非よろしく。

原稿受理：事務局庶務係 〒870
大分市末広町2-4-16. (福岡イカリテクス内)
九州クモの会 事務局庶務係まで
締切り：昭和63年5月15日

政・施策シリーズ／生活情報シリーズ



クモはどこで息をするのか

クモという動物が好きだと
いう人は少ないでしょう。しかし、
日本には毒クモはいませんし、よく観
察してみると、なかなか面白いムシです。
ところで、クモはどうやって息をしているか知つ
ていますか？

■おなかにある呼吸口（腹部）
皆さんよくご存じのジグモは、庭木の根もとや草
のきわなどの地中に袋状の巣をつくっているクモで、
地方によっては、ツチグモとかサムライとかカンペ
イなどと呼ばれています。

このクモを一匹捕ってきて、アルコールにつけて
殺し、ひっくり返して、虫メガネかルーペで見てく
ださい。おなかの下側に2対の横長の切れ目が見つ
かると思います。これは背貼気門といってクモの呼
吸口なのです。ジグモは背貼と呼ばれる呼吸器官で
息をしているわけです。背貼の中には空気が入る袋
が本のページのように重なり合っているので、この
名があります。

■高等なクモは田筋の一対が気管に
背貼は、クモやサソリなど一部の動物にしか見ら
れない変わった呼吸器官です。クモの中でも比較的
下等な種類は背貼だけで呼吸しています。しかし、
オニグモやハエトリグモなど高等なクモになります
と、2対の背貼のうち後ろの1対が気管に変化して
います。気管は昆蟲に広くみられる呼吸器官で、陸

素を直接体のいろいろな組織へ運びます。背貼で血液
の中に取り込まれた酸素が、肺静脈によって心臓へ運
ばれ、さらに動脈によって全身へおくり出されるので
すが、クモのような動物では、動脈と静脈が毛細血管
と静脈が毛細血管でつながっているわけではありません
から、血液は体の組織の間を流れています。そのため酸素が、それを必要としている組織へ到達するのに時間がかかります。呼吸器官としては、背貼よりも気管のはうがすぐれているということがいえ
ます。

ジグモのように、背貼しかもっていないクモは、
走るとすぐに息切れてしまします。逆に、気管も
兼ねそなえた高等なクモには、すばらしい運動能力
をもったものが多くありません。ハエトリグモの
すばしこさの秘密はそこにもあるのです。

指導—国立科学博物館動物研究部
昆虫第二研究室研究員・小野展朗

新世代のホフ。小野
展朗氏の「クモ広報」
です。経理府監修の
「広報通信」63年5月号
刊行。(社)日本広報協会
発行。

(4月12日受理)

「クモ」についての此
の種の広報、もっと
もっと欲しいですね。
リゾート開発に向け
て、今、全国各自治
体で、自然界に色眼
色づかずに向かがります。
この期をとどめて、ドドーン
と「クモ広報」よろしく。

九州クモの会 事務局：〒870 大分市末広町2-4-16. (福岡イカリテクス内)
庶務係：

昭和63年(1988)4月1日発行
(会費受理一覧は、6月会計報告で一括りますのでよろしく。)

総会 試案

- (試事) 1. 総会成立審議報告
 2. 周会
 3. 会長挨拶 (会長選任)
 4. 試事

- (1) 昭和63年度事業及び決算報告
 (2) 平成元年度事業及び予算提案
 (3) 会員拡大について。
 (4) 技術規程改正について。
 (5) 会計年度の変更について。
 (6) 会費徴収方法について。
 (7) その他

監査報告 (写)

下記決算は、1989年8月15日、証票書類と照合監査の結果、直正であるものと認め、監査を解いた。

1989年8月15日

監査役 木庭 奏 (印)

(資料)

決算報告

前期繰越金	66.316		
現金△/C	410.100	現金	300.715
会費△/C	117.000	出版費	117.500
寄附△/C	20.000	預金	10.500
預金△/C	10.500	送達料	25.870
値引戻入	2.000	通信費	19.315
雜收入	600	事務用品費	28.115
受取利息	69.	支払手数料	4.90
		次期繰越	124.080
	<u>1 626.585.</u>		<u>1 626.585.</u>

予算案

(收)	前期繰越金	124.080
	会費収入	124.000
/	寄附収入	50.000
		<u>1298.080</u>
	授金	157.500 — 別勘
		<u>1455.580</u>
(支)	未払金	207.000 — 会計代
	会費預金	124.000
	会報発行	14.000
	通信費	25.000
/	事務費	15.000
		<u>385.000</u>
(残)	残高	70.580

資産内訳

現金	32.100.
預金	19.470.
振預	72.510.
	<u>1 124.080.</u>

(1) 会計報告、提携説明
(2)

決算・資産 α/c

現金 α/c 総 α/c 方式採用につき動いた金は総額計上される。

寄附 α/c 吉倉先生の62年度預り金繰入

預り金 α/c 別刷料金、印刷所納入分

決算・負債 α/c

現金 α/c 前と同じ

出版費 α/c 印刷(別刷を除く)、版下、写真製版を含む。

預り金 α/c 印刷所納付完了

送達料 α/c 会誌、会報、原稿、送達用支出

通信費 α/c 印刷打合せ、該正、その他FAX、TEL(長距離等)

事務用品 α/c 消耗品、筆記具、スケルスケル、カッター、パンチなど

支払手数料 α/c 振込料、会員担当

予算收入(資産 α/c)

会費 α/c 前年実績

寄附 α/c 菊屋寄附

未受金 α/c 別刷料金 VOL.N. NO.1. 6名 525部負担合計。

予算支出(負債 α/c)

未払金 α/c 会誌、印刷、版下、製本、写真製版を含む。VOL.N. NO.1 分

会誌発行 α/c VOL.N. NO.2予算

以下略。

(3) 会員拡大 拡大目標 20名 2名で1名目

会の道正予算枠は 210,000 /年 従って $210,000 \div 2,000 = 105$ 名。
現在数40名とて 2.5倍目標 または 会費5,000/年目標

(4) 投稿規程 改正

原稿は4字×行とする。特別な版下技術など必要する時は、投稿者負担とする。または、規定にないものは、その都度協議する。

(5) 会計年度

4月～3月期は、会計処理上預り金、未収現金が多く好ましくない。

8月～7月期とすると、この点が解消され処理も合理化される。

(6) 会費徴収

振込料会員負担、振込用紙の記載金額明示、請求書代用とする。

(7) その他

- バックナンバーの在庫整理、交換文献取扱い。
- 総会出席 次試事項に関する委任状提出の徹底について。
- 会費振替之、寄附金取扱いについて。
- 会費納入報告、判りにくさの改善。
- 試業者の、次試験代用について。

0975-38-2414 FAX 菊屋

会費納入状況

(平成60年度) 松山紘一、(平成61年度) 徳本洋、松山紘一、村上成功
山根正氣、吉田哉、(平成62年度) 徳本洋、松山紘一、村上成功
吉田哉、(平成63年度) 池田博明、小沢実樹、小野展嗣、不庭
奏、国見裕久、下諏訪弘宗、徳本洋、松山紘一、村上成功、吉田哉
(平成元年) 市場利哉、池田博明(半数)、小野展嗣、奥井憲治、加藤
隆英、木庭奏、下諏訪弘宗、田中徳穂、千国安之助、徳本洋、
中島英男、野戸章、松山紘一、村上成功、吉田哉、(平成2年) 下諏訪弘宗
中島英男、吉田哉、(平成3年) 下諏訪弘宗、中島英男、(平成4年) 下諏訪弘宗

※ 村上成功氏は、8月20日で退会申出あり(完納) 預り金2,000.

東京からの便り (松本さん): どうぞ下さるといいですなー!!

前後して、九州クモの会会報 19号を受領致しました。ご苦労さまです。

3~6ページの絵本は、三慶の書店では、¥1210でした。高いと思って買わない
でいたのですが、会報を拝見して、翌日買ってしまいました。¥700は安いです。でも、交
通費や円安傾向を考えて、納得して ¥1210で買いました。目の不自由な人のためでしょ
うか。クモと糸は盛り上がっていました。面白い本です。子供は、太陽を見て、「ハラベコア
カ、クモと糸は盛り上がりっていました。面白い本です。子供にとって、いい本と目うことになるでし
オムシ」の作者と同じだと甘い当てました。子供にとって、いい本と目うことになるでし
ょう。オンドリが、a pesty fly とわざわざ pesty を付けているのが、いいですね。子供は
こういうところで、クモの有用性を理解するのだと思います。

レッドデータですが、クモでは指摘するのは難しいように思いますが、考えが浅いので
しょうか。大きさから考えて、また分布や分散習性などを考えると、結局は、ある種のクモ
そのものを保護するのではなく、かなり広い範囲全体を手付かずにすることが、一番いい
ように思うからです。確かに大きな網を張る種が少なくなっています。例えば、コガネグモ
ですが、この種の場合、「くも合戦ができるくらいまだいるじゃないか」と言う言葉に、ど
う対応するかが問題になるでしょう。勿論、コガネグモをレッドデータに指摘することは、
私は賛成ですが、その他にも、ご指摘のキムラゲモや、カネコトタテグモ、キシノウエトタ
テグモ、キノボリトタテグモも指摘したいですし、シグモさえ、とても少なくなっています。
生活範囲を狭められていることを考えれば、むしろ、人間の生活範囲とオーバーラップ
しているクモの方が危機に直面していると言えるかも知れません。ユカタヤマシログモ、
シモングモ、シラヒゲハエトリ、ミスジハエトリ、チャスジハエトリ、アダンソンハエト
リ、チリグモなどが挙げられますか? 住宅の質が昔と随分違つてきましたから、だんだ
んといくなりそうなクモたちです。

回答があるかどうか、あまり期待できませんが、編集部の方で、候補をいくつか挙げ、レ
ッドデータへの選択をして貰うというのはどうでしょう。イニシャチブは菊屋さんが挙ら
れるとよいと思います。候補が2・3種挙がれば、それらの保護のためにはどうすればよい
か、と言う方策を考えしていく方向に発展させられるように思います。

松本誠治

編集後記(私局により)

何よりも投稿者の多かったこと、その質に
感謝。ごとく、熊工大、渋田氏(吉倉先生著)
には文字どおり脱帽。
会誌の展開がどうぞ続きますようK…。

九州の会 熊野係

〒870 大分市赤坂町2-4-16(大分市赤坂町2-4-16)

1989.8.20.発行 会報 1/020.

FAX. 0976-38-2414

郵便番号 770-137343